

都市再生整備計画 事後評価シート
佐野駅周辺地区

平成24年3月

栃木県佐野市

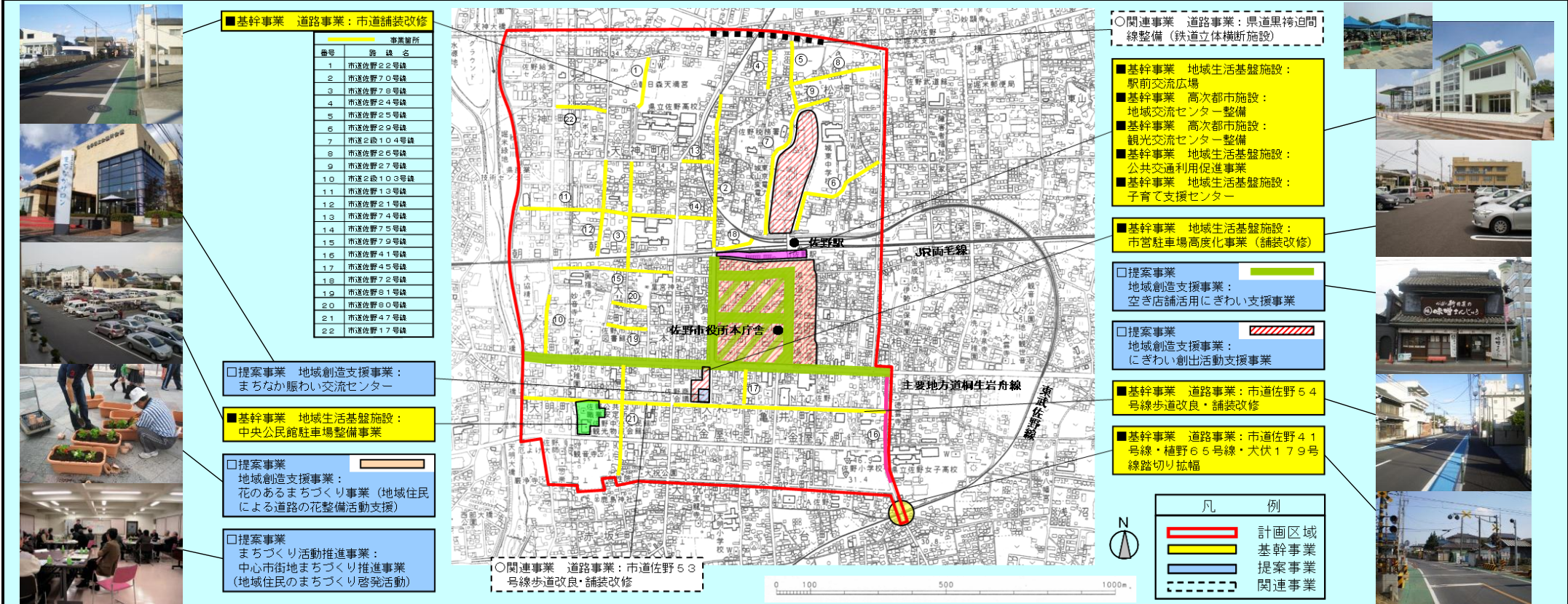
様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 栃木県 | | 市町村名 | 佐野市 | | 地区名 | 佐野駅周辺地区 | | | 面積 | 146ha | | |
|---------------------------------------|--|----------------------|--|--|---|---|--|-------------|---|---|--------|---|---------|
| 交付期間 | 平成19年度～平成23年度 | | 事後評価実施時期 | 平成23年度 | | 交付対象事業費 | 851,700千円 | 国費率 | 0.425 | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | | | 基幹事業 | 道路(市道舗装改修〔佐野22号線、佐野70号線、佐野78号線、佐野24号線、佐野25号線、佐野29号線、2級104号線、佐野26号線、佐野27号線、2級103号線、佐野13号線、佐野21号線、佐野74号線、佐野75号線、佐野79号線、佐野45号線、佐野72号線、佐野81号線、佐野80号線、佐野47号線〕、市道佐野54号線歩道改良・舗装改修、市道佐野41号線・植野65号線・犬伏179号線踏切り拡幅)、地域生活基盤施設(市営駐車場整備事業、駅前交流広場、中央公民館駐車場整備事業)、高次都市施設(地域交流センター、観光交流センター) | | | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | 地域創造支援事業(花のあるまちづくり事業、空き店舗活用にごわい支援事業、にごわい創出活動支援事業)、まちづくり活動推進事業(中心市街地まちづくり推進事業) | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | |
| | | | 基幹事業 | 道路(市道1級2号線舗装改修、市道佐野53号線舗装改修)、地域生活基盤施設(まちなか情報案内板設置事業) | | | 市道1級2号線舗装改修: 舗装状況良好のため、削除 市道佐野53号線舗装改修: 期間内執行が難しく関連事業へ移行 まちなか情報案内板設置事業: 観光マップでの案内に変更し、削除 | | | 幹線道路の歩行者数の指標に関係するが、路線の位置、舗装状況、マップによる情報提供から、移行・削除による指標への影響は低いと考え、目標及び指標は据え置く | | | |
| 新たに追加した事業 | | 提案事業 | 地域創造支援事業(公共交通利用促進事業) | | | 基幹事業へ移行 | | | 事業の基本的な内容に変更がないため、影響はなし | | | | |
| | | 基幹事業 | 道路(市道佐野41号線舗装改修、市道佐野17号線舗装改修)、地域生活基盤施設(公共交通利用促進事業、子育て支援センター) | | | 市道佐野41号線舗装改修、市道佐野17号線舗装改修: 舗装の老朽化により、追加 公共交通利用促進事業: 提案事業から移行 子育て支援センター: 市民ニーズの高さを考慮し、追加 | | | 市道舗装改修については、幹線道路の歩行者数の指標にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く 子育て支援センターについては、交流施設の利用者数の指標にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成19年度～平成23年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | — | | | | | | |
| | | 変更 | — | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | | フォローアップ予定時期 | |
| | 指標1 | 交流施設の利用者数 | 団体/年 | 3,175 | H17 | 3,810 | H23 | 3,450 | △ | あり なし | ● ● | 佐野駅前交流プラザや駅前交流広場の整備により交流活動拠点が形成され、利用者数の増加につながった。 | 平成25年4月 |
| | 指標2 | 幹線道路の歩行者数 | 人/日 | 710 | H18 | 850 | H23 | 939 | ○ | あり なし | ● ● | 交流活動拠点の形成、歩行環境の改善、にごわい創出の取組等により回遊性が高まり、歩行者数の増加につながった。 | — |
| | 指標3 | 空き店舗率 | % | 11.3 | H17 | 8.0 | H23 | 16.0 | × | あり なし | ● ● | 空き店舗の増加を抑えることはできなかったが、空き店舗活用にごわい支援事業を活用した新規事業者の出店数は増加しており、一定の事業効果が発現している。 | 平成24年4月 |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度※1 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | | フォローアップ予定時期 | |
| | その他の数値指標1 | イベント開催数 | 回 | 9 | H18 | | | 35 | | | ● | 交流活動拠点の形成や、まちなかで集客イベントを開催する団体の増加が、イベント数の増加につながった。 | 平成24年8月 |
| | その他の数値指標2 | 佐野駅周辺地区の生活環境の満足度 | % | 47.6 | H20 | | | 54.0 | | | ● | 交流拠点・移動環境の整備、にごわい創出事業など、総合的な取組が地区の魅力を高め、満足度の増加につながった。 | 平成24年5月 |
| 4) 定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> 市民が主体となり中心市街地の活性化を推進するための組織として、佐野市まちなか活性化推進協議会が平成21年1月に設立され、新市の中心市街地活性化基本計画の骨子となった「まちなか活性化のグランドデザイン」を市に提案するなど、佐野駅周辺のまちづくりについて活発な議論が展開されるようになった。 まちなかの活性化を目指す市民有志による「まちなかワークショップ」が佐野市まちなか活性化推進協議会内に組織され、若手中心の自由な意見交換活動が定期的に行われるようになった。 市内在住の作家とまちなかの店舗を結びつけ作品展示を行うまちなか・まちかどギャラリー「いっ展べえ」が、「まちなかワークショップ」の企画運営により開催されるなど、まちなかの新たな魅力創出を図る動きが見られるようになった。 | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | |
| | モニタリング | | — | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | — | | | | |
| | 住民参加プロセス | | ①「佐野駅周辺まちづくり道路ネットワーク構想」の策定に関するワークショップの開催 ②佐野駅周辺地区ワークショップの開催 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● ● | | | | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | | 市民主体の中心市街地活性化推進組織の設立 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● ● | | | | | |

様式2-2 地区の概要

佐野駅周辺地区(栃木県佐野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|-----------------------------|------------------|----------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 目標 にぎわいと交流の拠点整備による新市の顔づくり | 交流施設の利用者数 | 単位: 団体/年 | 3,175 | H17 | 3,810 | H23 | 3,450 | H23 |
| 目標1 新市の顔となる拠点の形成 | 幹線道路の歩行者数 | 単位: 人/日 | 710 | H18 | 850 | H23 | 939 | H23 |
| 目標2 拠点間のネットワーク形成による街の奥行き形成 | 空き店舗率 | 単位: % | 11.3 | H17 | 8.0 | H23 | 16.0 | H23 |
| 目標3 新市の市民が一体となる全市民的な交流活動の推進 | イベント開催数 | 単位: 回 | 9 | H18 | — | — | 35 | H23 |
| | 佐野駅周辺地区の生活環境の満足度 | 単位: % | 47.6 | H20 | — | — | 54.0 | H23 |



まちの課題の変化

- 駅前交流プラザや駅前交流広場の整備によりシンボル拠点が形成され、市民の交流活動の場として活用されるようになった。しかし、まちなかへのアクセシビリティや回遊性を高めるシンボル軸については未整備の状況である。
- 市道の舗装改修、市営駐車場の整備、観光案内所の設置、空き店舗活用による魅力的な商店の出現により、地区内の移動・周遊環境が整い回遊性が高まった。しかし、幹線道路の歩道について未整備の区間があり、快適な歩行者空間の形成に至っていない。
- 人口減少、少子高齢化の波に伴い、まちなかにおける居住人口や子供の数が減少し高齢化率が高くなってきており、将来的なコミュニティの維持や空き家の増加が懸念されるという新たな課題も生じている。
- 東日本大震災により被災した市役所本庁舎を現在地に建て替えることになり、新庁舎が完成する平成26年度末までの3年間は、商店街にとって厳しい状況が続くことが予想される。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 【駅前交流プラザ・駅前交流広場の利用促進】: 指定管理者による運営を継続し、民間の創意工夫をとり入れた施設として交流活動の機会を提供するとともに、各拠点施設との連携策や積極的なPRにより利用促進を図る。
- 【空き店舗活用による魅力的な商店街の創出】: 空き店舗活用によるにぎわい支援事業について、積極的なPRや制度の見直しにより利用促進を図り、継続的な出現を誘発する。
- 【継続的な市民主体のにぎわい創出活動の拡大】: 交流拠点施設を活用して継続的に実施される市民主体のにぎわい創出活動を、引き続き支援する。
- 【幹線道路における快適で安全な歩行者空間の確保】: 交流拠点施設と観光拠点施設を結ぶ幹線道路について、来街者が快適かつ安全に歩行できる歩道を整備する。
- 【アクセシビリティや回遊性を高めるシンボル軸の整備】: 新庁舎を含むまちなかへのメインアクセス道路としての機能確保や、回遊性を高める魅力的な沿道空間づくりを視野に入れた、シンボル軸にふさわしい整備を行う。
- 【居住・生活空間としてのまちなかの再生】: 将来的なコミュニティの維持に向けて、空き家対策も視野に入れた、居住・生活する場所としてのまちなかの環境整備を図る。
- 【その他】: 佐野新都市とまちなかの役割分担、佐野駅北側と南側の役割分担に視点を置いたまちづくりを標榜するとともに、行政・住民・地権者・事業者が互いに知恵を出し合える環境づくりに努める。